

# 園長通信

## (令和7年度4月号)

幼稚園型認定こども園高槻双葉幼稚園  
園長 岡部 祐輝

### 【新たなスタート】

本年度もいよいよスタートいたしました。

お子様のご入園、ご進級誠にありがとうございます。年少児ご家庭におかれましては、初めての集団生活の場となる方々もおられるかと思ひますし、これまでに経験のあるご家庭の方も、「幼稚園（こども園）」という一定人数規模のある集団やコミュニティで生活することが初めての方もおられるかと思ひます。

また、年長児・年中児ご家庭におかれましても、新しい学年となり、子ども達は期待や楽しみに加え、もしかすると、不安や戸惑いをお持ちかもしれません。

園としてまず4月大切にしたいことは、「幼稚園や新しいクラスにも自分を受けとめてくれる存在がいるということ」、「自分の面白いと思うことを一緒に面白いがる仲間がいること」、「一緒に笑ったり驚いたり、自分と同じことをしている存在がいる心地よさ」など、日々の園生活の中で、「感じることを大切に職員一同、保育計画を進めてまいりたいと思ひます。昨年度在園児の方には進学進級説明会でお話をしましたが、以下のスライドの姿が見られることもあります。



上記の通り、子どもたちは園でも様々な姿、言動、表情をするものと考えています。子どもたちから発信されるメッセージに対し、様々な角度から子どもを理解しようとし、そこで考えた保育者の解釈をふまえ、遊びの環境構成を考えたり、言葉がけを行ったり、自分の遊びの世界に没頭し、探究している場合には、あえてそっとそばで寄り添ったりするなど、状況に応じて対応をしま

りたいと思います。本年度もどうぞよろしくお願いいたします。

## 【園長通信で共有させていただきたいこと】

令和6年度（昨年度）の園長通信では、時期に沿って起こりえることや、それらにつながる幼児教育の考え方、園の考え方などを取り上げさせていただきました。

本年度は、前年度を踏襲する時期に応じた内容を扱うこと以外にも、

- 現在の幼児教育・保育などで大切にされている考え方の解釈や説明
- 幼児教育・保育をはじめとする教育・保育現場で見聞きする言葉の説明
- 幼稚園や幼児教育の裏側（意図やねらい）の紹介
- 子どもたちの力（すごい！/持っている力）の紹介
- 子どものそばにいる私たち大人が大切にしたいかわり

など、私のほうでテーマを選択させていただき、取り上げることができればと思います。

なお時期的なトピック、内容については、令和6年度の内容もぜひ参考にさせていただければ幸いです。

## 【園からの保育に関わる発信の種類やねらい・意図】

現在、当園では以下の種類の発信があります。

### instagram（インスタグラム）

- ・タイムリーに保育や様子を伝えたい
- ・日々の子どもたちの遊び・生活を見ていただきたい。
- ・子どもたちが作り出している遊び・モノ・関係性を伝えたい。
- ・当園の雰囲気（保育・園児・職員）を知っていただきたい。
- ・幼児教育（幼稚園）への社会からの関心を高めたい。

### 園長通信

- ・園の理念・方向性・考えをお便りなどに比して詳細に説明をしたい。
- ・最新の知見や国の動向などから影響を受けていることの解説をさせていただきたい。
- ・教育・保育の専門的な用語を実践や子どもの姿などを交え少しでもわかりやすく、詳細に伝えたい。

## □ドキュメンテーション（保育に関するお便り/在園児保護者限定）

- ・保育者からの目線で子どもたちのリアルな姿や言葉を過程とともに伝えたい。
- ・クラスの遊びや生活の話題が家庭でも表れるツールとして機能してほしい。
- ・見えやすい部分の育ち・変化だけではなく、一見、見えにくい育ちや変化を伝えたい。

## □動画配信（説明会など/一部在園児保護者限定）

- ・文字だけでは伝わりにくいことを音声言語や映像を通してよりクリアに伝えたい。
- ・ご家庭の皆様が各自のライフスタイルに応じて視聴できるようにしたい。

以上の通り、それぞれのツールや機会に込めたねらい・意図・効果などがあります。例えば、この園長通信は、上記の方法の中でも特に、「**字が多い**」、「**長い読み物**」となっています。ご家庭、保護者の皆さまそれぞれに、必要としている情報や情報量は異なると考えます。園としては、様々な機会、ツール、情報量、情報性質を各自で選択していただける状況を、できる限り作っていきたいと考え、毎年方法を模索しています。

そして、保護者の皆さまと、園の考え方や教育・保育の方向性の共有を行っていく過程を通して、子どもたちの成長や変化とともに喜び合える関係を構築していきたいと願っています。

## 【他者に思いをかける姿】

3月下旬のある日、園庭を歩いていると、預かり保育（ホームクラス）や2号認定クラス（フレンズクラス）の子どもたちが元気よく遊んでいました。ある日、私が園外の会議に出向こうとしたときに、ある子どもが声をかけてくれました。

子ども：「ゆうき先生（園長先生）、どこに行くの？」

園長：「ちょっと幼稚園の外でお仕事があるんだ。行ってくるね」

子ども：「遠くですか？」

園長：「ん～そうだね。車とか電車とかでいかないといけないくらい遠いかな」

子ども：「そうなんだ。気を付けて行ってきてね～！」

園長：「ありがとう！行ってくるね。」（その場から動く）

子ども：「行ってらっしゃーい！」（大きく手を振る）

何気ないワンシーンかもしれませんが、しかし私は、他者の行動に興味関心を持ち、自ら質問しようとする姿、そしてそこから取得した情報に対して、自分の感じたことや考えたことを言葉にして相手に伝える姿、さらにその言葉が私のことを気遣っているものであったことなど、とても心が温まる時間となりました。

数年前、新型コロナウイルス感染症拡大となっていたころ、私たちは物理的な距離をとらざるを得ない状況がありました。そのころから少しずつ、他者との距離感やコミュニケーションの取り方は、いいも悪いも変化してきました。そしてその変化は、ともすれば「分断」、「他者に関心が向きにくい」、「チームで何かを成し遂げる経験の少なさ」などにつながったこともあったのではないかと感じます。

幼児期は特に、人と人との関係性の中で学び、育つ時期と考えます。そしてその関係性は、大人が与える関係性（AちゃんはBちゃんとかうやって遊ぶのよと決めつけるなど）ではなく、自由遊びなどをはじめとする、子どもが自ら選択できる環境の中で「つながっていく」、「経験していく」ことが重要です。そうしたやり取りを通して、「さりげない一言」、「他者を勇気づける一言」、「場が温かい雰囲気になる一言」などをはぐくんでいけるよう、改めて子どもたちの過ごす環境や関係を大切に守っていただける園でありたいと決意を新たにしました次第です。

